

授業力アップ事業（現職教育）

あま市立美和小学校

1 目的

「授業力」という教師の資質向上は、学校の教育活動充実の根幹に関わるものです。本校でも、若手教師が次々と教壇に立つようになってきています。経験の浅い教師が、基本的な指導技術を身につけるとともに、経験を積んだ教師も、改めて自分の指導方法を振り返り更なる指導力の向上を目指すことで、組織全体の「授業力」を向上させることができます。

今年度からプログラミング教育が実施されています。子どもたちが、ICT機器の活用を楽しく効率的に学べるように、プログラミング教育の指導法の研究・研修を進め、職員全体の指導力向上を目指します。

2 内容

- (1) 校内研究授業・研究協議会
- (2) 道徳の授業研究・検討会（現職教育研究）
- (3) 外部講師招聘による授業力アップ研修会（プログラミング教育）
- (4) 校内伝達講習会



【プログラミング教育の研修会】

3 評価

- (1) 校内の研究授業では、授業者の思いを生かした提案型の授業を行い、成果とともに今後の課題が明確になるように研究授業を行いました。授業後の検討会でも、その点を意識した話し合いを行い授業改善に活かしました。
- (2) 研究4年目となる道徳の現職教育研究では、思考ツールの活用により、自分の考えを視覚化する方法を工夫しながら、他者の考えと比較して自分の考えを再構築させる対話方法について研究を進めました。思考ツールとしての学習プリントを導入することで、児童の抽象的な思考を明確に視覚化することができ、活発な話し合い活動を促すことができました。また、多様な思考や価値観を通して、自らの考えを再認識したり、新たな考えを再構築したりすることにより、道徳的諸価値に対する考えの深化を図ることができました。
- (3) 12月14日に、講師を招聘し、プログラミング教育における効果的な授業の進め方についての研修会を開催しました。実際に児童が授業で使うソフトウェアの画面を見ながら、指導の方法を1つ1つ教えていただきました。また、具体的にPCに教具を接続して使う体験を通して、教具の活用方法を学ぶことができました。初めて教具をPCで操作した教員は、素直にプログラミング学習の楽しさに感動していました。そして何より、プログラミング教育はPCの操作や機器のコントロールが目的ではなく、仲間と協力してトラブル（課題）をデバック（解決）することであると、改めて教えていただいた。
- (4) 様々な研究会や研修会への参加を促し、最新の情報や教育技術を日常の授業へ還元できるよう取り組んでいます。今年度は、筑波大学附属小学校で開催された研修会に参加した若手教員による伝達講習も行いました。学びの本質に立脚した生きた授業づくりへの実践的な指導方法について全職員で共有することができました。

4 課題

来年度は、安全に配慮した範囲内での活発な議論を目指し、一人ひとりの思考の変容を捉え成長の過程を把握することができる授業研究を計画的に実施するとともに、教職員の資質と力量向上に資する授業力アップ研修を更に充実させていく必要があります。

『地域と結びつく美和小の子どもたち』事業 「地域交流と情報発信」

あま市立美和小学校

1 目的

本校では、「地域の理解を得て地域に生まれ、地域に愛される学校づくり」が、児童のよりよい教育につながると考えています。そこで例年、運動会や学習発表会などの行事に、日頃からお世話になっている地域の方々を招待したり、朝の読み聞かせ活動に地域ボランティアの協力を得たりするなど、地域とのつながりを意識した取組を実践していました。しかし、今年度は新型コロナウイルス感染防止対策として、地域との交流が難しい状況にありました。こんな中で、本事業は、安全に配慮した範囲内での地域とのつながりを深め、児童の教育の充実のために行うものです。

2 内容

- ・ 『地域を感動させる』
ミワリンピック(全学年)… 保護者(地域)に公開
- ・ 『地域へ飛び出して』
地域奉仕活動(全学年)… 一斉下校時のごみ拾い
- ・ 『地域へ感謝の気持ちを伝える』
花のプレゼント(児童会)… 苗から花を育て、お世話になっている方々へ贈る



【花のプレゼント】

3 評価

- (1) コロナ渦では例年通りの週休日での運動会の開催は困難でしたが、何とか保護者に参観していただく方法を模索しました。その結果、平日開催で2学年ごとの発表とし、参観者が密にならないような配慮ができたと同時に、児童の安心安全に配慮することができました。9月24日の平日に開催し、行事名を児童に募集・選考し、ミワリンピックと命名しました。児童は、今年度初めて来校者にむけての発表の場を得たことで、自分たちを支え、応援して下さる多くの方の存在があるからこそ頑張れるのだということを改めて知ることができました。また、多くの保護者が「この状況の中、参観可能な行事を考え、開催してくれたことがうれしい」とアンケートに答えるなど、児童が保護者や地域の方々のつながりの大切さを味わう良い機会となりました。
- (2) コロナ渦での地域清掃ということで、一斉下校かつ付き添い下校のときに簡潔に行いました。それぞれの通学班で、下校時に通学路に落ちているごみを拾い、地域の美化に協力しました。
- (3) 11月26日に『地域へ感謝の気持ちを伝える』活動として、児童会が花のプレゼントを行いました。子ども達が育てた花を、あま市役所とナテックさんに届けました。児童会役員の児童は、花を渡すときに、感謝の気持ちを口頭でも伝えました。地域の方々とのよい交流の機会にもなりました。

4 課題

コロナ渦で、予定していた多くの地域交流活動が中止となってしまいました。本来「地域交流と情報発信」の活動は、年間を通して行われるべきものですが、今後もコロナウイルスの状況を見ながらの取り組みとなっていきます。安全に配慮した範囲内で、地域の特性を生かし、地域の方々が参加しやすい方法を工夫していく必要があります。それによって、地域との交流を更に深めることができると考えます。

『地域と結びつく美和小の子どもたち』事業 「キャリア教育」

あま市立美和小学校

1 目的

- (1) 本校では、① 自己及び他者への積極的関心の形成・発展
② 身の周りの仕事や環境への関心・意欲の向上
③ 夢や希望、憧れる自己イメージの獲得
④ 勤労を重んじ、目標に向かって努力する態度の形成
の4点を重点目標としてキャリア教育に取り組んでいます。その達成のために、各学年の発達段階に合わせて育成すべき能力を設定し、さまざまな取組を行います。
- (2) 子どもたちが将来への夢を育んでいく力を伸ばすには、いろいろな職業や生き方に触れさせることが大切です。そこで、地域学習と関連させて、地域を知り、そこで働く人々から生き方やものづくりにかける情熱を学びます。そして、その活動をきっかけとして、郷土の歴史を大切に、郷土の産業を愛する心も育んでいきます。

2 内容（各学年における学習活動）

4年生…社会科「伝統産業」

- ・ 地域の伝統工芸「七宝焼」の歴史を講師から聞き、七宝焼体験を美和小学校で行いました。

5年生…「野外活動」

- ・ キャンプカウンセラーとの交流を通して、ボランティア精神について学びました。

6年生…「職業講話」

- ・ 児童の希望や夢につながるように幅広い分野の講師をお招きし、働くことの意義や重要性についての講話を聞き、体験活動を行いました。



【七宝焼体験】

3 評価

- (1) 4年生の七宝焼学習では、あま市の伝統産業である七宝焼を自分たちで作る活動を通して、その美しさや奥深さを肌で感じる事ができました。講師の先生方に来校していただき、安心安全に体験活動に取り組むことができました。また、体験活動を通して、七宝焼きに親しみをもったことで、生まれ育った地域の誇りとして、七宝焼のすばらしさを再認識することができました。
- (2) 5年生の野外活動では、ウォークラリーとキャンドルファイヤーで、キャンプカウンセラーに活動を補助していただきました。それによって、滞り無く活動を行え、ボランティア精神について考えることができました。
- (3) 6年生の職業講話では、4名の地域講師をお招きして、職業についてのお話をうかがいました。また、6年生は体験活動として昇降口の壁面に石を並べ、装飾作品を作りました。講師の方の指導のもと、仲間とともに力を合わせてものづくりをすることの成就感を味わうことができました。



【職業講話】

4 課題

コロナ渦において、体験での安全面が疎かにならないように、また、各学年で行う学習活動が一過性の学びとならないように、児童の発達段階に応じた目標設定を明確にし、児童の職業観が系統的に育成されるよう実施していく必要があります。

職業講話に関しては、職業観の更なる育成を図るために、児童の実態に即した講師の選定や、事前の打ち合わせを綿密に行う必要があります。また、講話にとどまらず、何かしらの体験を行えると、より深い学びが得られると考えます。

情報モラル事業

あま市立美和小学校

1 目的

- (1) 子どもたちのスマートフォン等の利用によるネット依存や、SNS の利用にともなう事件や事故の未然防止と対応方法について、子どもたちに正しい知識と認識をもたせます。
- (2) 子どもたちを見守る保護者や教師が連携し、子どもたちが巻き込まれる危険性のある様々な有害情報についての正しい知識と適切な助言や指導ができるようにします。

2 内容

情報モラル出前授業 … 外部講師を招き、専門的な知識と適切な対応について5年生と6年生が段階的に学びました。

【5年生児童対象】

- ・ ネットに写真をのせると…
- ・ 写真からわかること
- ・ フィルタリングとは
- ・ ゲーム3つの注意
- ・ アプリを入れるとき

【6年生児童対象】

- ・ インターネットにのせたもの
- ・ インターネットで知り合った人
- ・ 時間を守って
- ・ ○○を決めて使う
- ・ フィルタリングについて



【高学年対象の情報モラル出前授業】

3 評価

小学校の高学年においては、スマホ等の情報端末を個人で保有している割合が年々高くなり、家族や知人の端末を利用した経験を含めると、利用経験のある児童がほとんどでした。ラインやティックトックなどの言葉もほとんどの児童が知っており、情報化は、確実に小学生にも浸透していることがうかがえました。しかし、情報に関するモラルや取り扱い方法についての知識は乏しく、容易に事件や事故に巻き込まれる可能性が高いことも分かりました。

今回の出前授業では、ルミノソの講師によるプレゼンテーションを利用したたいへん分かりやすい説明のおかげで、子どもたちは、情報の適切な利用方法について、段階的に学ぶことができました。特に、ラインによるトラブルとその対処方法や、ネットゲーム依存による健康被害について認識を深めることができました。

4 課題

情報端末の適切な取り扱いについては、使用条件の設定やフィルタリングなどの技術的規制が必要となります。使用にともない起こり得る危険性を大人が十分に認識し、事前の予防と、使用させる際の徹底した指導が必要となります。

コロナ渦では、自宅で携帯電話等を触る機会がどうしても増えてしまうと考えられます。だからこそ、今後は、SNS による危険について子どもたち自身にもより深く認識させ、技術的な環境整備と合わせて、使用する際の児童の自主規制とモラル向上を図っていく必要があります。